平成27年 3月24日

多摩六都科学館 及び 多摩六都科学館駐車場
指定管理者

平成27年度　事業計画書

多摩六都科学館 及び 多摩六都科学館駐車場
指定管理者

株式会社 乃村工藝社

目　次

ページ

平成27年度事業の基本方針　1

1章　事業計画　4

1.　科学館事業　（中核事業）　5

2.　地域拠点事業　15

2章　経営管理計画　17

1.　マーケティング　18

2.　管理業務　（運営管理）　21

3.　開館日及び開館時間　22

4.　管理執行体制　24

5.　収支計画　26

6.　3カ年アクションプラン　28

平成27年度事業の基本方針

はじめに　平成27年度事業計画　DO!SCIENCE！の実践

・科学するとは何かを再度考える。
・観察する、実験する、工作する楽しみの中にある。
・知る＜好む＜楽しむ。
・「事実をとらえ、事実に基づいて考え、自分の意見を持つ営み」＝「科学するというプロセス」。
・科学の体系を学ぶことは必要だが、学ぶことが本意ではなく、実感を伴った体験が要（かなめ）。

この「実感する」という社会的ニーズは、平成20年度の文部科学省新学習指導要領・生きる力、理科の項目『自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。』にも見られます。
科学館内での中核事業と、コミュニケーション・プラットフォームを意識した地域拠点事業を両輪に、27年度は3カ年アクションプランをベースに、外部環境・内部環境・利用状況などを踏まえ、常に計画をローリングしつつ、各活動を有機的に連動させながら、最適なサービス創造に向け効率的かつ有効な事業を展開します。

尚、事業及び業務の遂行に当たり、関与するすべての情報に対して管理上の責任を持ち、帳簿類や業務の記録及び報告書等を適切に管理し、監査や情報公開に対応すると共に、情報を管理するに当たり、不正アクセスや情報漏洩を防止するためのセキュリティ対策及びアクセス制限を厳格に行います
また、すべてのスタッフが、常に利用者中心の考え方で業務に臨み、利用者の安全で快適な施設利用の為に最善を尽くします。

平成27年度事業計画の基本方針

多摩六都科学館の
活動理念
館全体の包括的・長期的
事業目標

科学でつながる
ともにつくりあげる
多摩六都科学館

多摩六都科学館第2次基本計画の使命の『多様な学びの場』の創出、『地域づくり』の支援をめざすため、活動のテーマを引き続き「DO！サイエンス」(*1)とします。利用者自らが積極的かつ主体的に関わり、スタッフとともに「科学する」を実感できる場と機会の提供をめざします。
今後は、「市民の科学館／Science Center of the people」(*2)を到達点とし、事業展開をめざします。

科学館事業(中核事業)

事業目標1
科学を楽しみ
世界と向き合う

科学の楽しさを実感できる学びの場づくり

中核事業の活動のテーマでもある「DO！サイエンス」とは、「実感を伴った理解を図る学習活動」(*3)の提供であり、観察・実験・工作といった体験的な活動を重視することです。
多摩六都科学館の新10年計画（第2次基本計画）の使命として掲げられた『多様な「学びの場」の創出』と、科学館事業目標である圏域市民の「科学リテラシーを高める」を達成させるためには、科学館活動のすべてを「実感の場と機会を提供する」ことに収斂することによって実現できると考えられます。この実感を提供できるよう、標本・装置の充実、専門性とエンジョイメントの両立、参加体験でのコミュニケーションのさらなる充実をめざします。

地域拠点事業

事業目標2
多摩六都の
交流拠点

幅広い年齢層が科学を仲立ちとして交流・連携する場の創出

多摩六都科学館は、生涯学習施設としての機能強化が求められています。これまで同様、ボランティア活動やキャリア教育の支援など、圏域市民が様々な立場で交流できる場づくりに努めます。また。今後は友の会会員とも「ともにつくりあげる」関係づくりを進めます。
子どもだけでなく、幅広い年齢層が気軽に利用できる機会や学びの場を市民とともにつくりあげていきます。

事業目標3
多摩六都の
魅力発信

地域資源や市民をつなぐ場／コミュニケーション・プラットフォーム(*4)へと進化

展示や調査研究活動などを行う際、地域資源の価値発掘と魅力発信も視野に入れて活動を行い、圏域市民の「地域リテラシー」(*5)の醸成を図ります。また、「地域参画力」のある人材育成も行いながら、多摩六都圏域を支える諸団体・市民との連携に力を入れ、自律的な市民の地域づくりを支援します。
将来、科学教育のためのコンテンツやプログラムをオープン・データ化できるよう、開発を進めます。

経営管理

事業目標4
愛着の持てる
ロクトへ

「利用者中心」に一元化されたコミュニケーションマネジメント(*6)によるマーケティングの展開

コミュニケーションを重視した「DO！サイエンス」をさらに充実するため、最有力顧客であるファミリー層と、開発目標のシニア層をターゲットとした市場調査を行い、サービスの最適化を図ります。また、事業評価を的確にフィードバックし、サービス内容のさらなる向上につなげます。これらのサービスをターゲットマッチングを意識してタイムリーな広報・PR活動を行います。
今後も、アテンドや広報だけでなく、すべての科学館活動を「利用者中心」に一元化したコミュニケーションマネジメントを行います。

事業目標5
持続可能な
しくみづくりを

顧客満足度を高め、地域づくりの基盤となる体制整備

企画展の成果物を常設展示に活用できるなど、的確な企画計画予算計画を練り上げ、実施します。また、地域拠点事業充実のため広域連携活動助成金などの資金調達にも取り組みます。
また、顧客満足度の高いコミュニケーションサービスが達成できるよう、目標設定方式による人事評価を導入し、スタッフのコミュニケーションスキルの向上を図ります。また、地域づくりのための体制やネットワークの構築も活動しつつ、進めていきます。

註

*1:「DO！サイエンス」

いわゆる名詞の『科学』ではなく、『科学する』といった行動そのものを意味する。学校や映像での科学体験ではなく、観察・実験・工作を中心に据えた科学のプロセスを心身全体で実感することを大切にする指定管理者が提唱する多摩六都科学館の大方針。

*2:「市民の科学館／Science Center of the people」

of the people, by the people, for the peopleはリンカーン大統領の言葉である。by=市民による科学館やfor=市民のための科学館は自明として理解でき,公共の施設の目指すところでもある。活動理念の『ともにつくりあげる』の目指すところは、このbyとforに大きく依存するが、公共の最終着地では、それによって作り上げられた科学館が市民自身に帰属する、of＝自分の科学館という認識を持つにいたるところにある。このofの感覚は自覚しにくくあえてここで述べた。

*3:「実感を伴った理解を図る学習活動」

東京都教育委員会が平成25年度授業の見直し指針（理科教育）で、「実感を伴った理解を図る理科学習」が示されている。

*4:コミュニケーション・プラットフォーム

一般的に博物館の機能は、収集・保存、調査研究、展示教育といった三つの要素に経営・管理を加えて記述されることが多い。これは1980年代以降コレクション中心の博物館の社会における存在理由を理解してもらうために博物館側から提案したものであった。

一方利用者側から博物館を情報蓄積型の社会機関として見た場合そこに期待するものは、文化の持続・継承、豊かな社会の維持、豊かな人生への期待である。従来これらに関する技術・知識・情報などについても博物館内部にある資源という位置づけであったが、地域に存在する博物館外の資源も含めて社会的資源として利用可能にするという考え方。この場合この社会的資源にかかわる人々やセクターとセクターをつなぐ場＝コミュニケーション・プラットフォームとして提供できることが新たな機能として期待されている。

(「博物館における連携」『博物館経営論』（放送大学教材）放送大学教育振興会,2013年3月を参考に一部改編)

*5:地域リテラシー

市民が自分の生活する地域に愛着を持てることは豊かな市民生活を送る必須条件といえる。

そのためにはその地域の持つ様々な資源(自然環境や歴史文化・・・)について知ることから始まり、その資源同士のつながりや、自分がそれと深くかかわることのスキル＝地域リテラシーに大きく依存する。多摩六都科学館では地域の科学館として、地域の社会的資源を深く関与しており、この資源を有効に使って圏域の地域リテラシーの育成を高めることを活動の大きな柱としています。

*6:コミュニケーションマネジメント

ハードとしての展示物には、利用者が目的性を持たない場合には寡黙である。ここに学芸員などによるコミュニケーションを加えることで科学館体験は本来的な価値を生むことになる。スタッフ一同が科学館運営活動の核にコミュニケーションがあるという価値観の下、中核事業と地域拠点事業に、お客様指向アテンド、ターゲットマッチングな広報PR活動までを連動させ、科学館を利用者・市民・スタッフ・専門家・企業・地域関係者のために、科学を仲立ちとしたコミュニケーション・プラットフォームとして機能させるよう、各活動をコミュニケーションに一元化したマネイジメントのこと。

1章　事業計画

1. 科学館事業 （中核事業）

理工系、自然史系両分野の展示物や実物標本を備えた常設展示室と、世界最大級のドーム径に最新鋭の投影機を備えたプラネタリウムドームという、恵まれた条件を備えた総合科学館として、圏域5市から広くは多摩エリアに住む人々に楽しみながら科学に親しむ機会を提供し、様々な体験を通じて興味をより深めることを目指します。

利用者の様々な興味、年齢、利用形態に応じた多様なコンテンツを館スタッフが企画・開発してニーズに応えるとともに、科学館での体験を重ねることでより主体的な学びに進む、生涯学習の流れも作ります。また、「連携」「交流」「成長」の理念に基づきながら、自然科学分野はもちろん、アート等、異分野とコラボレートした企画にも取り組み、多摩地域の文化発信地としての存在感も高めます。

(1) 調査研究・資料収集活動

地域の身近な自然への理解を深めることを目的に、専門家や市民と連携して行われてきた調査・研究活動を継続して実施します。

圏域5市の自然環境を記録するために必要な資料や標本を収集し、適切な処理により管理保管を行い保護・保全します。また、市民や研究機関等からの寄贈、寄託または譲渡の申し出のあった資料を調査・評価等を踏まえて受け入れ、整理・同定・登録作業を行います。受入資料は積極的に公開します。

＜調査・研究活動＞

名　称	テーマ・内容	目　標
地学系調査・研究	関東ローム、多摩川の礫等、地域の地質をテーマにした調査・研究活動を行う。 化石ニューズレター発行	飛来物調査の実施と結果の公開 貸出標本の充実
生物系調査・研究 ★	樹木伐採後の科学館雑木林の生物環境を、外部の専門家の協力を仰いで適宜実施し、その変化の様子を記録、発信する。	定期調査の実施と調査内容の発信

＜寄贈品の整理・リスト作成＞

名　称	テーマ・内容	目　標
既存コレクションの登録・公開	未整理の寄贈標本のリストを作成し、展示・貸し出し等活用可能な形に整理する。	舟木鉱物コレクションの一部公開 櫻井標本コレクションの展示入替 田口貝標本コレクションの一部公開
新規標本	市民等からの標本寄贈の申し出への対応。情報発信。	

★：地域拠点事業としても機能している活動

(2)展示活動

常設展示については、各部屋でコアとなる展示テーマ・メッセージを意識し、不足しているもの、更新すべきもの、残すべきものを常に考慮しながら、常設展示更新を効果的に進めます。

つながり展示については、つながりの意味付けや、意味ある連携を意識し、3カ年計画のなかで効果的に実施します。

企画展示については、「DO!サイエンス！」 を進化させつつ、計画段階から企画展の成果物による常設展示の展示物更新を念頭に置き、計画的に実施します。

① 常設展示 （常設展示学習）

「チャレンジ」「からだ」「しくみ」「自然」「地球」の5部屋で構成された常設の展示室は、それぞれの部屋でハンズオン展示物や実物標本等を通じて、利用者が自分の身の回りにあるモノ・コトや自分自身の中に持つものを科学の目で見つめ、日常の中の科学を発見し、自分で「科学する」ことに楽しみを見いだすことをねらいとしています。

科学の入り口としての役割とともに、常駐する解説スタッフや科学館ボランティアとの対話・交流や、体験性が高く、直接触れることができる展示物によって、実感をともなった理解を得る体験や、より専門的な知見に触れる場としての機能を提供します。

その他、展示室2・3・4・5の4部屋には「つながるスポット」という展示エリアを設け、企業や研究施設、地域団体・市民との連携をベースとした展示・関連情報提供を行い、科学／地域の情報発信の場となります。

この “つながり”をキーワードに、各展示室において、テーマ展示の更新やスタッフによるインタープリテーションを展開し、更には企画展の成果物も常設展示化して有効活用を図るなど、常に新鮮な印象を持てるような変化や成長を実践します。

また、展示品は点検・整備を行い常時利用者が安全に体験できるようにします。特に故障により利用者が危険に晒される可能性のある乗り物系展示物は、予防保全を徹底します。

○常設展示室面積　　2,003.22平方メートル
○常設展示物数　　約110点（その他、標本等一次資料約800点）

名　称	テーマ・内容	目　標
常設展示室でのコミュニケーション活動	開館時は展示室にスタッフが常駐し、利用者とのコミュニケーションを通じて科学への興味喚起や専門情報の提供を行う。 ・展示解説、展示物操作、安全管理 ・ラボ、ワークショップ等による展示活性化 ・解説パネル、補助展示物・標本等の随時更新 ・クイズラリー運営 ・企画展の成果物（新規展示や模型・映像コンテンツ等）の常設展示活用 ・展示ツアーやギャラリートークの実施	科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80％以上 クイズラリー利用者 カード作成　10,000人 カード更新　1,000人
つながるスポット★	展示室2・3・4・5各室に企業、研究施設、地域団体・市民との連携した展示を行うエリアを設け、科学や地域の情報を発信する。	各展示室、年1回以上展示物もしくは展示テーマを入れ替え、常設展示室を活性化する。

★：地域拠点事業としても機能している活動

② 企画展示 （企画展示学習業務）

旬の情報・トピックや世代・時代を超えて人気の高いテーマを特集する特別企画展を、ゴールデンウィーク、夏休みなどの多客期を中心に実施します。内容によっては常設展示との関連を意図して、常設展示室内での同時展開を含めて実施します。

企画展示においてもインタラクティブな体験要素や「連携」「交流」「成長」といった視点は重視し、テーマに興味を持った新規利用者を呼び込むことに加え、繰り返し利用者（リピーター）増による幅広い集客と、科学館から外に向けての専門性／地域情報の発信力強化を実現します。

○イベントホール面積　　約120平方メートル

名　称	テーマ・内容	目　標
春の特別企画展「学ぼう自然災害～正しく知って身を守る～」★	科学館周辺でも大きな被害を受ける可能性のある自然災害を取り上げ、それぞれの起こるしくみや想定される被害を紹介する。 4月1日（水）～4月12日（日）　8日間 全開催期間： 平成27年3月21日（土）～4月12日（日）　19日間 ※4月7日（火）～10日（金）は休館	自然現象についての知識を得ることを目的とする企画展として開催。科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80％以上を目標とする。 期間中のイベント会場来場者数10,000人以上（全期間で20,000人以上）
GW特別イベント「ロクトロボットパーク2015」	ロボットの操縦体験や実演ショーなど、ロボット技術に触れ親しむ機会を提供する。 4月25日（土）～5月6日（水）　11日間 ＊4月27日（月）は休館	主に集客を目的としたイベントとして開催。科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80％以上を目標とする。 期間中のイベント会場来場者数15,000人以上
夏の特別企画展「テーマ：錯覚」	錯覚を体験し、楽しみながら理解することで、人間の感覚（5感）について再発見する。 7月18日（土）～8月31日（月）　45日間	体験を通じての実感・理解を目的とする企画展として開催。科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80％以上を目標とする。同時に集客も目的とするため、期間中の利用者　40,000人以上
第15回日本万華鏡大賞・多摩展★	日本万華鏡大賞公募展の優秀作品の展示。「科学」と「アート」の融合である万華鏡の魅力を伝える。 10月10日（土）～11月3日（火・祝）	科学とアート融合である万華鏡の魅力を伝えることを目的に、科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80％以上を目標とする。
冬の特別企画展	平成27年　冬休み期間中に開催	現時点で企画内容は未定だが、科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80％以上を目標とする。
春の特別企画展	平成28年　春休み期間中に開催	

★：地域拠点事業としても機能している活動

(3)天文映像活動 （天文映像事業）

「実感を伴った理解」につなげていくためには、体験してもらうことが一番です。しかし、天文・宇宙の学習は実体験してもらうことが困難な分野です。そこで、まずは星空や映像を見ながら専門的な解説を聞くことによって興味を持って覚えてもらうことを目指します。ただし、ただ見るのではなく当館が誇る世界最大級のプラネタリウムドームという空間を活用して、東京では見ることができない満天の星や、まるで映像の中に入り込んだような体験など、ワクワクする非日常の映像体験を提供することによって楽しみながら「実感を伴った学習活動」へつなげていくことを目標とします。

① プラネタリウム

世界で最も先進的なプラネタリウムに認定された光学式プラネタリウムを活用して、まずプラネタリウム自体を楽しんでもらい、本物の星空を眺めるきっかけとし、日々新しい発見があるエキサイティングな分野である天文・宇宙の楽しさを伝えます。 そのための手法として解説員が直接話しかける「生解説」を行うことにより、利用者とやりとりすることで「実感を伴った学習活動」へとつなげるとともに、新しい知見をいち早く紹介します。

一方で、プラネタリウムに対して利用者が求められていることは、星座の見つけ方から宇宙論に至るまで多岐にわたります。そこで、様々なニーズに応えるため、伝統的な星座解説に加え、約2か月ごとにテーマを変えることで満足度の向上を目指します。

また、科学館周辺の風景とともに圏域5市から見ることができる「光害」の星空を投影し、地域に密着した生解説も行います。無駄な街灯りを消すことによって圏域市の星空を少しでも取り戻せることを啓発していきます。

名　称	テーマ・内容	目　標
一般プラネタリウム	季節の話題や、その時節の話題をテーマとした解説と、今夜の星空生解説（全編生解説）。テーマは適宜更新し、年間6本程度を予定。 また、星空解説の補助として、月ごとの星図を記した「ほしぞらニュース」を毎月作成・配布する。	科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80%以上を目標とする。
キッズプラネタリウム	未就学児や小学校低学年とその家族向けのプログラム。 短編アニメーションなどと星空生解説を組み合わせて投影する。	
特別プラネタリウム	七夕、お盆、クリスマス等、特別な日限定で特別プログラムのプラネタリウム等を実施する。	
字幕付きプラネタリウム★	ユニバーサルデザインを推進するため、平成26年度に試行的に実施した字幕付きのプラネタリウムの結果を基に、より難聴者の方も楽しめるような投影を検討し実施する。	

② 大型映像 （映像体験学習）

大型映像は、巨大スクリーンであるドーム空間で、自然や宇宙の迫力ある映像とストーリーを鑑賞することで、強い感動と独自の視覚体験を得ることができます。平成24年度に新規導入された高性能ビデオプロジェクターによる高精細デジタル映像投映装置と世界最大級のドームスクリーンによって、あたかも映像に入り込んでしまったような感覚を味わえます。映像をただ「見る」のではなく「体感」することによって、専門的な知識を映像とストーリーを楽しみながら「実感を伴った学習理解」になることを目指します。

年間3作品程度を選定し投影します。科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80%以上を目標とする。

(4)参加体験型学習活動

他館にも例のない、多種多様な体験性の高いプログラムを実施して、世代を問わず「実感を伴った理解」が得られる機会と場を提供します。

科学館での学びの中核をなすプログラムとして、科学館の教育スタッフやボランティア、専門の指導者が科学教室やワークショップを実施します。内容もさまざまな年齢、興味に応じたプログラムを実施し、来館者のニーズに応えます。

その中でも特に以下のポイントを重視して、事業を展開します。

・実感を伴った理解や自律的な発見を重視

子どもの理科離れ対策や成人の生涯学習の方法として特に有効なのが、学習主体と知識や技能が関連付けられ、実感を伴った理解や自律的な発見ができる体験学習です。教育スタッフがファシリテーターとなり、サイエンス(理工)、自然、天文のそれぞれの分野で、参加対象者に応じた指導方法や学習形態を細かく組み立て、学習者が自然や物質、生命、環境との関わりに気づき、主体的な意識で学びに向かう場づくりを日々発展させます。

・DO！ サイエンスの基礎　[実験] [工作] [観察] [天文] 4つの学びのカテゴリー

科学学習室と各展示室のラボのプログラムは、科学することの基本となるこの 4つのカテゴリーで展開します。入門的内容から発展的内容へのつながりやフィールドでの実体験も意識して、学習者の学びの成長を促します。

・学びの多様性

多様な参加者が集い、共に学ぶ環境を築くことで、地域のグループ学習の場を形成し、参加型学習プログラムの更なる多様性を生み出します。

・安全管理

設備・機器・薬品等の管理を徹底し、参加者が安心して実験や工作に携われるように図ります。

① 参加体験型プログラム

参加者が機器の操作や工作等を直接体験できるプログラムを＜実験＞＜工作＞＜観察＞といった科学することの基本要素と、個人では体験しにくい＜天文＞の4ジャンルで展開します。それぞれ入門的内容から発展的内容までラインナップすることで、科学好きを育てる流れをつくります。

＜実験＞

名　称	テーマ・内容	目　標
入門的内容	簡単な体験やサイエンスショーを通して、身近な科学現象について知り、科学の面白さに触れる。	利用者が気軽に科学体験できる機会を提供し、科学への興味を引き出す。 年80日程度実施 体験人数8000人以上
発展的内容	実験を通して科学的な視点や技術を身に着け、テーマを掘り下げて考える。	リピーターや科学に興味がある方へ実習機会を提供し、科学好きを育てる場となる。 年20日程度実施 応募率80％以上 満足度80％以上

＜工作＞

名　称	テーマ・内容	目　標
入門的内容	簡単な科学おもちゃやネイチャークラフトなどの工作をすることで、ものづくりの楽しさ、科学・自然の面白さに触れる。	利用者が気軽に工作できる機会を提供し、ものづくりへの興味を引き出す。 年100日程度実施 体験人数10,000人
発展的内容	ものづくりに取り組むことで、機械などのしくみやつくりを知り、創意工夫する楽しさを知る。	科学工作にじっくり取り組む機会を提供し、ものづくりの知識・技術も習得できる場とする。 年30日程度実施 応募率80％以上 満足度80％以上

＜観察＞

名　称	テーマ・内容	目　標
入門的内容	顕微鏡をのぞく、身近な石や生きものをじっくり見る、といった体験から、自然界にあるものへの興味を持ち、観察の視点を得る。	利用者が気軽に観察できる機会を提供し、身近な環境を見つめるきっかけをつくる。 年50日程度実施 体験人数7,000人
発展的内容	生物・地学分野の観察や標本作成に必要な基本技術を習得し、自然を読み解く力・観察眼を養う定員制教室を実施する。	地学・生物学に興味がある方へ実習機会を提供し、専門知識・技術を学べる場となる。 年40日程度実施 応募率80％以上 満足度80％以上
野外観察会★	専門家から指導を受けながら、動植物の観察や岩石・鉱物の採集、地形・地質の観察を行い、本物に触れて理解する。	フィールド学習で観察眼を養うとともに、地域の自然の価値を伝える。 年8日程度実施 応募率80％以上 満足度80％以上

＜天文＞

名　称	テーマ・内容	目　標
天体観望会	時節の見ごろの星座や天体を野外で実際に望遠鏡や双眼鏡で観察して宇宙への興味を深める。 年間12回程度実施	イベント終了後のアンケート結果にて「満足度」80%以上を目標とする。
天文教室★	相互協力協定を締結した国立天文台との共催で、「やさしい天文教室」を開催。天文台の研究者によるお話しと工作の教室を開催する。	イベント終了後のアンケート結果にて「満足度」80%以上を目標とする。 また、国立天文台との協力関係の強化を進める。
施設見学会★	相互協力協定を締結した国立天文台との共催で、国立天文台の施設見学会を開催する。	イベント終了後のアンケート結果にて「満足度」80％以上を目標とする。 また、国立天文台との協力関係の強化を進める。

★：地域拠点事業としても機能している活動

② 講演会・サイエンスカフェ

自然科学に限らず、当館の髙柳館長を含む幅広い分野の専門家を迎え、科学に対する知見をより深める講演会や、参加者と演者がインタラクティブに意見を交わせるサイエンスカフェを計年間12回程度開催します。主に中学生以上の成人層をターゲットとし、市民が専門家と交流する場をつくり、生涯学習の場としての多摩六都科学館の価値向上を進めます。

③ 長期的な学習支援・人材育成 （育成・学習支援）

科学館の活動を通じてより深く科学に興味を持ち、発展的な学習を求める児童・生徒や、生涯学習として研究・調査等の活動を進めたいと思う市民に対し、学習機会や活動スペース及び資料を提供して、その学びを支援します。

また、主に近隣市民に学びの場を提供することにより、見知らぬ市民同士が科学という共通の文化を通して、新たな住民ネットワークを形作るきっかけを作ります。

今後、天文系だけではなく、生物系、地学系や物理・化学系と言った分野でのクラブサービスの提供を進めます。

名　称	テーマ・内容	目　標
天文クラブ	天文学について掘り下げて学び、屋外で本物の星空を見ることにより、青少年の天文に関する自発的な学習を支援する。	終了後のアンケート結果にて「満足度」80%以上を目標とする。
自由学園連携天文事業	連携先である自由学園を活動場所とした天体観望会や館長講演会を実施する。 将来的に自由学園が独自で観望会を実施できるよう人材を育成していくことを目標とする。	自由学園教員に配布するアンケート結果にて「満足度」80%以上を目標とする。

(5)学校団体を対象とした学習支援事業 （学校連携・支援）

科学館の持つ専門性やプログラム、装置や標本等のコンテンツを生かして、学校では実施の難しい要素をもった授業の補完となるプログラムを提供します。また児童の学習だけでなく、研修の開催や教材貸し出し等、指導者の支援となる事業も実施し、地域の「頼れる施設」となることを目指します。

また、自主的な学習利用については、高学年、中高大、シニア向けも考慮し、中核事業の内容を効率的・有効的に活用する学習プログラムと解説の手引きを用意すると共に、この内容を学習の手引きとホームページに的確に反映し学習利用はもちろん教師や生徒の自主的な利用を促します。

① 学習投影

学校内では実施の難しい要素をもった授業の補完となる事業を実施します。小中学校の校外学習として重視されてきた天文の学習投影では、プラネタリウムのデジタルハイブリッドの特性を活かして、興味を持ちやすい内容で、よりわかりやすく行います。基本的に学習指導要領に則って投影しますが、学校の実情に合わせて柔軟できめ細かい対応を取っていきます。

また、事前学習や来館後の振り返りに活用できるような資料の提供も行います。

名　称	テーマ・内容	目　標
学習投影番組1	小学4年生向け学習投影（生解説＋オリジナルオート番組） 太陽の動き、星の動き、夏または冬の星座（選択制）、月の動き、月の形、月に関する発展学習	先生・引率者に配布するアンケート結果の「満足度」80%を目標とする。
学習投影番組2	小学6年生向け学習投影（生解説＋オリジナルオート番組） 今夜の星空（星座）解説、月の満ち欠けのしくみ、太陽系惑星に関する発展学習	
学習投影番組3	小学4年生、6年生以外（中学校含む）の団体用投影 教員・学校の要望により投影内容を独自にカスタマイズして実施する（中学校には今夜の星空とコズミックコリジョンズを推奨）	
幼児団体投影番組	幼児団体向けに今夜の星空生解説とオリジナルオート番組を投影（計約35分）	
団体用英語投影番組	四季の星座解説（英語録音テープ解説）＋コズミックコリジョンズ（英語版：ナレーション／ロバート・レッドフォード）	
プラネタリウム学習のしおり	小学4年生向けプラネタリウム学習投影を利用する学校向けのプラネタリム学習のしおりの提供	

② 体験学習プログラム （学習プログラム）

圏域5市の小学校の科学館利用時に児童・生徒がより「実感をともなう理解」ができるよう、体験性の高いプログラムを提供します。学校内の理科室ではできないような道具・スペースを使った発展的内容の実験・観察等を実施していきます。

名　称	テーマ・内容	目　標
予約制 学習プログラム	クラス単位で受講できるプログラムを実施する。 ・実験「電気の“きせかえ”実験場」 ・観察「**地域の自然に目を向けよう**」 ・ショー「空気の性質をたしかめよう」 ・講座「**くらしを支えるエネルギー**」 ・実験「燃料電池って何だろう」	先生・引率者に配布するアンケート結果の「満足度」80%を目標とする。

③ 常設展示での学習支援プログラム （展示学習支援）

児童・生徒の常設展示室見学がより有意義なものになるよう、平日の学校団体利用が多い時間帯には自由参加形式のラボプログラムを開催し、実験・観察の体験機会を提供します。また、ワークシート等の支援ツールを提供し、学校の校外学習を支援します。

名　称	テーマ・内容	目　標
平日ラボプログラム	展示室の「ラボ」を活用し、学校団体向けのプログラムを実施する。 ・「わくわく実験TIME」 ・「観察ひろば」	学校団体の展示室見学の活性化。 先生・引率者に配布するアンケート結果の「満足度」80%を目標とする。
見学支援ツール	展示ワークシート、展示室見どころマップ等のツールを作成・提供する。	

④ アウトリーチ活動 （学校における学習の支援） ★

科学館ならではのコンテンツを圏域5市の小中学校に提供し、地域の理科学習を支援します。
立地、財政的条件等により来館が困難なエリアに対しては科学館のコンテンツを出前するサービスを行い、地域の科学力向上に貢献します。また、学校単位でそろえることが困難な地学標本や生物資料の貸し出し／提供を行い、指導者を支援するとともに授業の内容向上に貢献します。

名　称	テーマ・内容	目　標
児童・生徒へのアウトリーチ	平日、構成5市の小中学校に出向いて、実験ショーや、ボランティアの協力による工作教室など、学校に向けたアウトリーチ活動を行う。リクエストに応じて都度実施。	立地等の制限で科学館に来にくい学校等への案内を強化し、実効性を上げる対応を行う。 地域の学校のニーズを把握し、アウトリーチのスタイルを固める。
校外学習支援	学校が行う総合学習や地域学習の実施に協力する。	利用校の満足度 圏域5市内の学校、教育委員会との連携強化
資料提供・貸し出し	多摩川の小石の学習キットの貸し出しや、プランクトンのサンプル提供等による、学習支援を行う。	貸出は随時対応する。 教員向けの研修会等で貸し出し・提供の案内をし、認知度をあげる。

(6)人材育成・研修事業

① 教員研修★

指導者養成の専門機関と連携して教員向けの研修会を開催し、地域の指導力向上へ貢献します。また、地域の指導者どうしの学習会等の開催にも協力し、地域の理科力向上や指導者のネットワークづくりを支援します。

名　称	テーマ・内容	目　標
東京都教職員研修	東京都教職員研修センターと連携し、東京都教職員を対象に、生活科・理科の研修講座を開催。	東京都教職員センター、地域の理科教員との連携強化。 また、本研修を今後も多摩六都科学館で開催できる環境をさらに整える。
学芸大教員セミナー	学芸大学高度支援センターと連携し、主に構成5市の小中学校の教員を対象に、教員向けの研修講座を開催。	参加した先生よりアンケートを収集し、より効果的支援内容への改善に資する。
教員の学習会等の支援	各市小中学校の理科部会の研修会や自主勉強会の開催などに対し、コンテンツや場の提供を行う。 随時対応	前年度利用市の継続利用を推進すると共に、各市小中学校理科部会の先生に、コンテンツや場を提供していることを、より広く知っていただく。

② キャリア教育　(その他研修等受け入れ等)★

地域の公共施設として、また科学の専門施設として、キャリア教育の一環となる実習等を受け入れ、次の世代を担う人づくりにも貢献します。

名　称	テーマ・内容	目　標
職場体験	中学生のキャリア教育として、圏域5市の学校と連携して実施する。	希望する生徒は可能な限り受け入れると共に、教員セミナー等で多摩六都科学館での職場体験の認知活動を行う。
博物館実習	博物館実習生への専門教育として、学芸員課程履修者の学生に対し館務の実践的研修を行う。	3～4名を目途に希望者を受け入れる。
インターンシップ	主に大学生の職業体験機会として、大学と連携して希望者を受け入れる。	2～3名を目途に希望者を受け入れる。

★:地域拠点事業としても機能している活動

2. 地域拠点事業

当館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、多様な「学びの場」をつくっていきます。また、地域の拠点として「地域づくり」に貢献することをめざします。

これまで科学館事業の中でも実施してきた地域連携活動を、今後は、地域拠点事業としても位置づけていくこととします。

地域拠点事業は、科学だけに止まらず、広範囲な文化の領域にも貢献できるよう、活動を進めていきます。

今年度から位置づけを明確にした取組でもあり、予算もない中でのスタートのため、今年度は試行的に事業を展開し、基盤となる体制整備を進めていく計画です。

＜科学館事業と地域連携事業　関連図／マトリックス＞

		地域拠点事業	
		(1)地域の交流拠点活動	(2)地域資源創造・魅力発信活動
科学館事業(中核事業)	(1)調査研究・収集保存活動	市民との連携で推進	地域資源でもあるコレクションの魅力発信
	(2)展示活動	展示室でのボランティア活動	圏域市民や機関と連携協働で展示開発・実施
	(3)天文映像活動		圏域に世界一のプラネタリウムがあることを発信
	(4)参加体験型学習活動	学習支援を通して住民のネットワーク形成のきっかけづくり	多摩地域の市民や機関と連携協働で活動実施 地域性の強いコンテンツの発信
	(5)学校団体を対象とした学習支援活動	地域の専門家を指導者として迎える	将来の科学の担い手育成
	(6)人材育成・研修活動	指導者育成や圏域市民のキャリア教育の場	東京都や圏域の大学との連携による人材育成 地域参画力向上に向けた人材育成

(1) 地域の交流拠点活動

当館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、多様な「学びの場」をつくっていきます。また、地域の拠点として「地域づくり」に貢献することをめざします。

① 地域連携による活動

●多摩六都圏域における連携・交流

圏域5市の行政や学校、研究機関、企業、NPO、その他の団体及び個人と連携し、地域における新たな学習機会の創造や地域情報の発信などを担う、地域拠点としての役割を高めていきます。

●関連団体等との連携・交流

他の科学館・博物館や各種関連団体と連携することにより、博物館事業における共通課題や解決案を共有します。

また、圏域5市以外の学校、研究機関、企業等とも、お互いにとって良好な協力関係を築いていきます。

●多摩北部広域子ども体験塾

東京都の多摩・島しょ広域連携活動として、圏域5市で実施する事業（多摩北部広域子ども体験塾）に協力します。圏域5市の魅力や特色などを科学の視点から取り上げ、子供達が参加できるプログラムを企画・運営します。

② ボランティア会の活動支援

当館では多彩なボランティア活動が行われています。多様な「学びの場」をつくっていくパートナーとして、その活動をサポートします。ボランティアがより主体的に参画し、利用者と相互に学び合い、ともに成長することのできるよう、より自立的な関係をつくります。また、館スタッフとの連携を更に深めて、それぞれの専門性を引き出していきます。

(2) 地域資源創造・魅力発信活動

地域資源を活かした様々な企画や展示教育活動を展開し、その情報を積極的に発信していきます。
多摩六都圏域を支える諸団体・市民との連携に力を入れ、自律的な市民の地域づくりを支援します。

2章　経営管理計画

1. マーケティング

最適なサービスを行うため、利用者中心の発想に基づいたマーケティングを実践します。利用者ターゲットに合わせたセグメント展開を行うことで、科学館と利用者との良い関係を継続的に構築し、高い満足度を達成するよう努めます。平成27年度は年間利用者数18万5000人以上を目指します。

(1)顧客開発

① 営業顧客開発

利用者を増加させる施策として、平成26年度から引き続き、圏域5市市民の未利用者(65% 約45万人)及びシニア層をターゲットとした顧客開発を行います。

・圏域5市の未利用者に関しては、特に利用率の低い清瀬市民を中心としての誘客活動を行う。

・シニア層に関しては、平成24年度から認知・誘客活動を継続しており、昨年(平成26年)度から認知度が高まり少しづつ来館に繋がってきてます。今年度も引き続きシニアキャンペーンに合わせた広報を実施します。

・平成26年度から開始した小学6年生向け学習投影番組の利用を推進します。

・これまで科学館を利用する機会がなかった層への誘客活動を試行する。

② 友の会運営(※最終版では年度パスポートと新メンバーシップ制度の切り分けを記載予定)

当館では、利用者の科学に対する興味と関心を高め、科学する心を養うことを目的として「多摩六都科学館サイエンス友の会」を運営しています。その活動を継続し、リピート利用の促進と新規入会の増加のための働きかけを行っていきます。そのために、友の会限定プログラムを充実させ、会員特典の付加価値を高めるとともに、会員との関係づくりに努めます。

また、友の会は市民モニターとして事業に参画いただける機会を作ります。

名　称	テーマ・内容	目　標
友の会の運営・新規会員の募集	サイエンス友の会の会員募集と管理を行う。	会員数1500人 H28年度から実施予定の年度パスとクラブサービスの切り分け準備
友の会独自事業	友の会会員限定の教育事業として、ワークショップや野外実習等を行う。	年間7,8回の限定イベントを実施
友の会ニュースの発行	友の会会員への情報提供を行う。	年間5回の発行

(2)市場調査

① 市場及び利用者調査

平成25年度から実施しているスタッフが利用者に直接記入を依頼するアンケート調査を継続します。また、入館券発券時に記録している来館者データとの整合性など、適宜見直しを行い、より信頼性の高いデータを収集します。

平成27年度は、前年度までに得られた調査結果をもとに、利用者の属性および満足度、利用実態の把握の精度を向上させ、目標設定や事業運営に活用します。

② 未利用者調査

未利用者調査を継続し、より正確な未利用者の状況を把握し来館促進策を検討します。

(3)広報

様々な媒体を複合的に活用し、科学館の認知度向上と利用者増加を図ると共に、マスメディア向けの広報にも注力し、戦略的な情報発信を行います。

① 紙媒体の活用

名　称	テーマ・内容	目　標
科学館ニュース	科学館の事業の全体的な広報を行う。	年間5回、小学校を中心に圏域5市や近隣市に配布する。科学館事業全般に関する周知を図る。また、配布先の見直しを実施し、よりPR効果を高める。
ポスター、チラシ	科学館の主要事業の集客のための広報をタイムリーに行う。	特別企画展や、サイエンスカフェ等のイベントの事前告知をタイムリーに実施する。 年に1回ではなく、年に2,3回来館するリピーターの獲得を目指す。

② WEB媒体の活用

名　称	テーマ・内容	目　標
公式ウェブサイト	タイムリーにコンテンツを更新し、来館意欲のわくような、わかりやすい情報発信を行うとともに、利用者の利便の向上を図る。	H26年度は前年度比でユーザー数が約25%増加したが、それを来館につなげられなかった印象がある。 H27年度は同等のユーザー数を確保しつつ、情報の充実により来館を促す。
スマートフォン版公式ウェブサイト	約半数あるモバイルからのアクセスに対応するため、スマートフォン用に最適化した情報発信を行う。	
YouTube、Facebook、twitter	ソーシャルメディアを活用し、WEB上での効果的な情報拡散を図る。	動画を使った広報を継続的に行っていく。

③ その他広告媒体の活用

名　称	テーマ・内容	目　標
宣伝広告	圏域5市の主要な駅や地域紙・雑誌などのメディアに広告を掲出し、認知度向上および利用者増加につなげる。	前年度に効果が見られた新聞折込や駅ポスターを継続するほか、家族向けのお出かけポータルサイト等への広告も検討。
動画映像	館内やWEB上を中心に、動画を効果的に用いた広報を行う。	特に大型映像は動画を用いた広報が有効と思われるため、継続していく。
案内広告・標識	東京電力電柱と消火栓に案内広告を掲出する。自動車の主要進入経路にあたる場所等に、案内看板を設置する。	「科学館南入口」バス停からの順路への電柱広告を設置を検討する。

④ マスメディア等の活用

名　称	テーマ・内容	目　標
圏域5市広報紙	構成5市の広報紙への記事掲載のために、科学館の最新情報を配信する。	圏域市民(特に50代以上)に対する広報媒体として、毎月2回、読者層に合わせたコンテンツを提供していく。
プレスリリース	テレビ局、ラジオ局、新聞社、雑誌社、地元メディア等に、科学館の最新情報を配信する。	特別企画展などの大きなイベントに合わせてリリースを行い、取材と幅広い周知につなげる。
取材協力 撮影協力	企画展をはじめ、科学館に対する取材に積極的に協力する。 内容を審査のうえ、テレビ番組、CM、雑誌等の撮影に協力する。	可能な限り協力し、メディアとの関係を良好に保つ。 内容に問題のない場合は、休館日の撮影でも協力する。

2. 管理業務 （運営管理）

(1)チケット発券・コンシェルジュ業務

館利用者に対し、入館チケットを発券するほか、利用者が滞在時間を最大限に楽しめるよう、一人ひとりに合ったプランの提供および内容案内、団体利用の予約受付と管理、事前見学や実地踏査、電話問い合わせ等の対応を行います。また、館内での迷子や交通案内等、利用者のさまざまな相談にきめ細やかに対応し、利用者満足度の向上を最優先とし、科学館の「顔」として、迅速で正確な対応と公平な態度を心がけます。

(2)安全管理業務

安全管理を徹底し、利用者の安心・安全・快適な環境の維持に努めるとともに、災害発生時に適切に対応できる安全管理体制を構築します。

また、「防犯」「防災」「緊急時の対応」を柱として作成した危機管理マニュアルを、職員全員に徹底を図るとともに、「緊急対策ポケットメモ」を携帯させて更なる意識啓発を図ります。

(3)設備管理業務

利用者満足度向上のための快適かつ機能的な環境を、中長期的な視点も交えて継続的に提供するとともに、当施設の公共性を自覚し、その目的の達成を施設維持管理面で支援します。

施設及び物品を適切に管理するとともに、指定管理業務に関する仕様書区分に基づいて維持管理を行います。また省エネルギー、省電力、節水に取り組み、環境に配慮します。

(4)駐車場の管理運営業務

新たな駐車場の運用に関し、科学館周辺道路において、利用者の駐車車両の交通誘導等を円滑に行い、利用者及び近隣住民の安全確保に十分な配慮をするとともに、利用者の利便性と収益性をともに満足できる運営体制を構築します。

3. 開館日及び開館時間

平成27年度の休館日及び開館時間を以下のとおりとします。

＜平成27年度休館日＞

区分	休館日
月曜日　(35日) ・月曜日が祝日又は、振替休日の場合は開館する。 ・平成27年春休みの4月6日、夏休の7月27日、8月3、10、17、24、31日、平成28年冬休の1月4日、春休の3月28日は開館する。	4月　：　13日、20日、27日 5月　：　11日、18日、25日 6月　：　1日、8日、15日、22日、29日 7月　：　6日、13日 9月　：　7日、14日、28日 10月　：　5日、19日、26日 11月　：　2日、9日、16日、30日 12月　：　7日、14日、21日 1月　：　18日、25日 2月　：　1日、8日、15日、22日、29日 3月　：　7日、14日
祝日又は、振替休日の翌日　(7日) ・GWの4月30日、夏休の7月21日、冬休の12月24日、春休の3月22日は開館する。	5月　：　7日(木) 9月　：　24日(木) 10月　：　13日(火) 11月　：　4日(水)、24日(火) 1月　：　12日(火) 2月　：　12日(金)
年末年始(7日)	12月　：　28日(月)、29日(火)、30日(水)、31日(木) 1月　：　1日(金)、2日(土)、3日(日)
プラネタリウム・展示　メンテナンス日(10日)	4月　：　7日(火)、8日(水)、9日(木) 6月　：　2(火)、3日(水)、4日(木)、5日(金) 9月　：　1(火)、2日(水)、3日(木)
消防訓練　(2日)	4月　：　10日(金) 9月　：　4日(金)
臨時休館日　(6日)	10月　：　6日(火)、7日(水)、8日(木) 1月　：　26日(火)、27日(水)、28日(木)

総休館日数　67日
平成27年度開館日数　299日　(設置管理条例・規則に基づく基本開館日数　292日)
(平成26年度開館日数　300日)

＜平成27年度開館時間＞

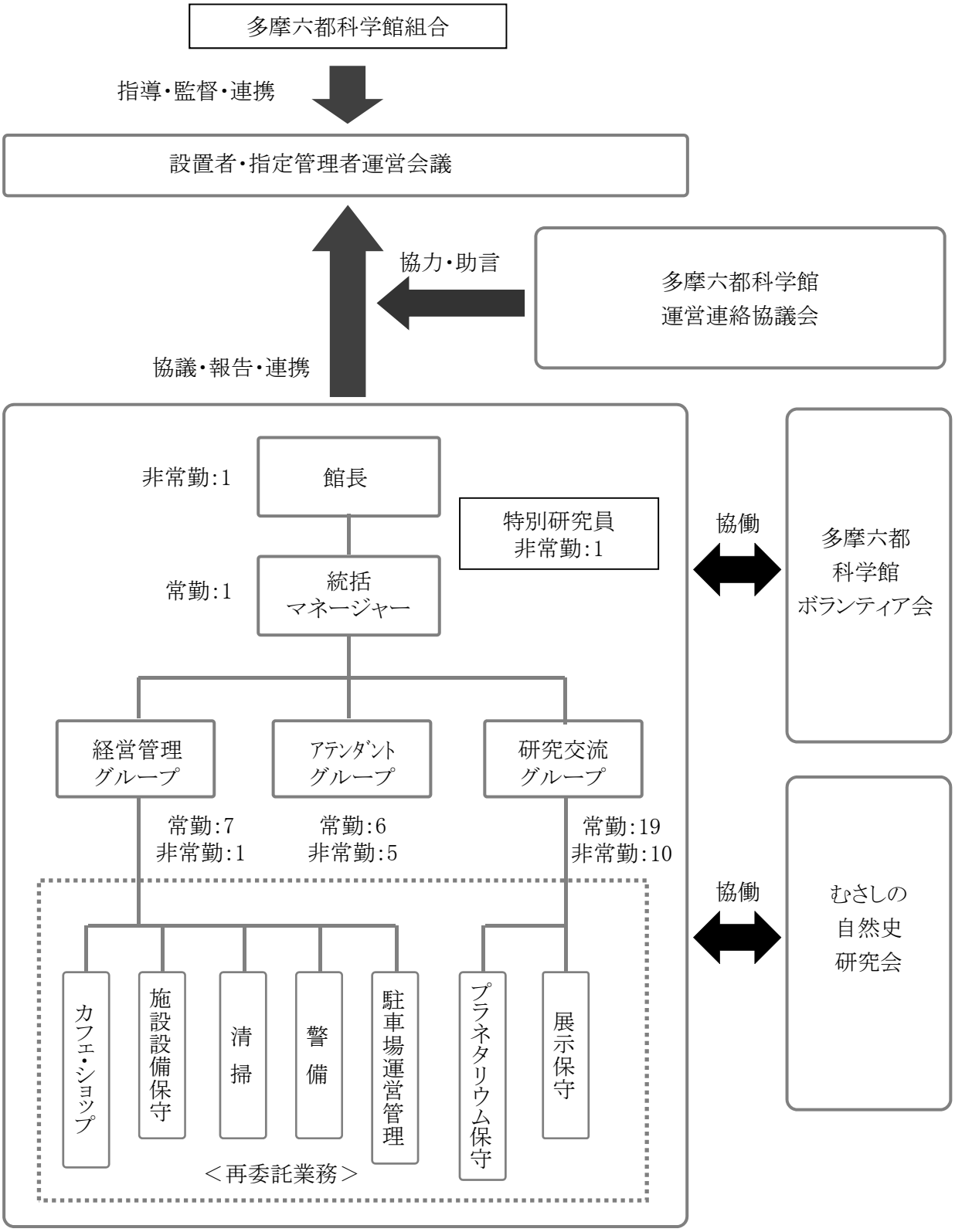
区　分	利用時間	時間延長等
科学館	午前9時30分～午後5時	(1)7月18日～8月31日は午後5時30分まで開館 (2)8月9日～16日は特別投影プラネタリウム実施のため、当該プラネタリウム利用者のみ午後6時45分まで利用可能 (3)夜間イベント(天体観望会等)に合わせて施設を開館
駐車場	午前9時15分～午後5時15分	(1)7月18日～8月31日は午後5時45分まで利用可能 (2)8月9日～16日の特別投影プラネタリウム観覧利用者は、午後7時00分まで利用可能 (3)夜間イベント(天体観望会等)に合わせて利用時間を延長

※設置管理条例・規則に基づく利用時間のほかに、事業プログラムに合わせて時間延長を図るなど、柔軟に対応をします。

4. 管理執行体制

平成27年度の組織・人員体制は以下のとおりとします。

(1) 平成27年度組織体制



(2)多摩六都科学館運営連絡協議会

科学館組合、利用者・圏域市民とともに、運営連絡協議会を設置し、科学館の運営について連絡・調整を行うほか、事業計画の立案、事業評価の活用等について意見交換、情報共有、協力体制の構築等の検討を行います。

協議会は定例的に実施し、市民に開かれた運営を目標とし、地域との綿密な連携・協力体制を築きます。

平成27年度は7月中旬、11月下旬、2月下旬に開催します。

(3)平成27年度指定管理者人員表及び職務分掌

<table>
<tr><th colspan="3">役職</th><th>職務分掌</th></tr>
<tr><td colspan="3">館長　1名</td><td>館の顔として館外交を代表する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">特別研究員　1名</td><td>館の学芸に関する指導・支援・コンサルティングを行う。</td></tr>
<tr><td colspan="3">統括ﾏﾈｰｼﾞｬｰ　1名</td><td>経営を実施面で総括し事業を計画して推進。組合管理者協議窓口。
地域連携窓口。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">経営管理グループ(8名)</td><td colspan="2">ﾘｰﾀﾞｰ　1名</td><td>業務管理責任者。予算やスタッフ等の管理。外注業者管理。事業報告を作成する。　又、広報活動や地域連携も併せて管理する。</td></tr>
<tr><td>経営管理担当</td><td>ｽﾀｯﾌ　3名</td><td>経理庶務、総務対応。問合せ対応。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">広報・地域連携チーム</td><td>ﾁｰﾌ　1名</td><td rowspan="3">ボランティア会や、地域団体への支援と、取材対応。広報媒体等の制作。
WEBサイトの更新・運用管理。市場・利用者調査等のマーケティング。
アンケート集計、友の会メンバー管理を行う。</td></tr>
<tr><td>ｽﾀｯﾌ　2名</td></tr>
<tr><td>非常勤 1名</td></tr>
<tr><td rowspan="4">アテンダントグループ(11名)</td><td colspan="2">ﾘｰﾀﾞｰ　1名</td><td>顧客接点の責任者、アテンダントグループのマネジメントやシフト調整を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ｻﾌﾞﾘｰﾀﾞｰ　2名</td><td rowspan="3">接客・受付・案内・販売業務。
サイエンスエッグへの案内及び、安全管理。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ｽﾀｯﾌ　3名</td></tr>
<tr><td colspan="2">非常勤5名</td></tr>
<tr><td rowspan="8">研究交流グループ(29名)</td><td colspan="2">ﾘｰﾀﾞｰ　1名</td><td>研究・展示・教育活動の方針化と推進。スタッフ活動のマネジメント。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">天文ﾁｰﾑ(5名)</td><td>ﾁｰﾌ　1名</td><td rowspan="2">宇宙・天文に係る研究・展示・教育・プラネタリウム活動を推進。</td></tr>
<tr><td>ｽﾀｯﾌ　4名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自然ﾁｰﾑ(6名)</td><td>ﾁｰﾌ　1名</td><td rowspan="2">生物・地学系の教育普及・展示企画・研究活動を担当。</td></tr>
<tr><td>ｽﾀｯﾌ　5名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ｻｲｴﾝｽﾁｰﾑ(8名)</td><td>ﾁｰﾌ　1名</td><td rowspan="3">理工系の教育普及・展示企画・研究活動を担当。</td></tr>
<tr><td>ｽﾀｯﾌ　6名</td></tr>
<tr><td>非常勤 1名</td></tr>
<tr><td>展示担当(9名)</td><td>非常勤 9名</td><td>展示物の案内・操作。</td></tr>
</table>

5. 収支計画 （収支計画書）

平成27年度　多摩六都科学館指定管理者　収支計画書

（千円）

区　分		内　訳	金　額
(A) 収入合計 （税込）			395,533
① 指定管理料			272,253
② 利用料金収入			107,000
	入館観覧料等		91,500
	駐車場使用料		18,500
	組合還元金		-3,000
③ その他の収入			16,280
	企画展・教室参加費・ラリーカード発行費		3,000
	販売委託		500
	広告掲載料他		180
	ぐるっとパス共通チケット精算金		600
	補助金・協賛金・多摩島しょ		12,000

（千円）

区　分			内　訳	金　額
(B) 支出合計				395,533
① 管理運営人件費				154,360
	管理運営人件費（アルバイト含）			131,200
	福利厚生費		社会保険、福利厚生費	18,960
	通勤交通費			4,200
(C) 管理運営人件費以外の支出 （税込）				206,340
② 運営事務費				18,420
	賠償責任保険料		施設賠償保険	140
	旅費交通費		車両燃料を含む	330
	事務用品費			660
	消耗品費		救護用品を含む	850
	印刷費・製本費		封筒、名刺等	360
	通信費・運搬費・受信料		電話、郵便、宅配便、TV受信料	1,930
	事務用PC借上げ			3,100
	カウンター式複写費		複写機借上げ及び使用料	1,000
	現金集計機借上料		組合より無償貸与	150
	事務機器借上料（HPノートPC、Canonプリンタ）		事業用PC、プリンタ、印刷機	300
	館用車費用			620
	手数料（両替、他）		両替手数料等	50
	ユニフォーム		補充	250
	会費・負担金		日博協、全科協、日本プラネタリウム協議会他	350
	図書費・研修費		外部研修、講習・セミナー等参加費	1,100
	情報システム運用費		メールアカウント、回線使用料	300
	発券機借上げ・保守点検			5,200
	運営連絡協議会謝礼			350
	会議費・交際費			380
	運営事務雑費		医務室布団丸洗い等	1,000
③ 科学館事業				65,260
	常設展示			11,770
		常設展示品・機材	展示物部分更新、ラボ機材	3,180
		保守・修理		6,190
		クイズラリー諸経費	ICカード、景品等	2,400
	特別展示			11,410
		春の特別企画展		1,980
		GW特別イベント		1,370
		夏の特別企画展		5,460
		万華鏡大賞多摩版		900
		冬の特別企画展		1,100
		ミニ企画展	年2回実施	600
	天文・映像体験学習事業			21,650
		ドーム映像コンテンツ番組		11,500
		保守・修理		9,550
		消耗品費		250
		備品費		350
	講座型学習事業			20,430
		講座・教室・イベント機材		3,420
		観察会・観望会	開催諸経費、地学・自然体験事業委託費	430
		館外活動保険料	館外事業保険料	20
		講師料		5,200
		サイエンスカフェ		1,050
		多摩島しょ子供体験塾		10,310

区　分				内　訳	金　額
④ 地域拠点事業					2,250
	ボランティア事業				1,750
		ボランティアワークショップ費			560
		ボランティア運営費			1,080
		ボランテイア保険			110
	友の会運営事業				440
	外部組織との連携事業				60
⑤ マーケティング事業費					13,800
	マーケットリサーチ諸経費（営業・広報活動費）				2,450
	広報費、印刷費				10,720
		科学館ニュース		印刷費・発送費	5,850
		カタログ・チラシ			870
		電柱広告・消火栓広告			3,200
		その他			800
	ホームページ運用維持管理費（WEB管理・更新）				630
⑥ 施設維持管理に係る経費					68,040
	維持管理業務委託費（再委託業務）				59,950
		清掃業務		日常清掃、定期清掃、維持管理消耗品	24,190
		設備運転保守管理業務		2ポスト配置	13,280
		付帯設備保守点検業務		EV、自動ドア、電話交換機、他付帯設備保守点検	11,120
		環境衛生管理業務		選任業務、空気環境、水質、残留塩素、受水槽清掃点検、害虫駆除	2,370
		警備・安全管理業務			7,990
		機械警備			450
		廃棄物処理業務			550
	その他施設管理費				8,090
		レンタル費			950
			AED借上げ		250
			便座クリーナー借上げ	洗面所衛生用品借上げ	500
			防災用緊急対応無線機借上費		0
			マット		200
		施設維持管理改善費用			610
		照明交換		管球費	430
		館庭樹木・植栽等管理業務			900
		修繕費			5,200
⑦ 駐車場運営管理業務に係る経費					9,500
	駐車場運営管理業務				5,100
	駐車場警備誘導業務				1,800
	パーキングシステムリース費				2,600
⑧ 光熱水費等					29,070
	電気				24,970
	上下水道				3,240
	ガス				860
(D) 公租公課					14,034
	消費税・地方消費税　（預り消費税－仮払消費税の差額を計上）				14,014
	市町村税　（事業所開設にともなう市町村税）				0
	印紙税				20
(E) 一般管理費					20,799
	本社　スタッフ支援、給与j計算、経理事務等				17,000
	シーズ・スリー　サポート業務				3,799

6. 3カ年アクションプラン

外部環境・内部環境・利用状況などを踏まえ常に計画をローリングしつつ、各活動を有機的に連動させながら、最適なサービス創造に向け効率的かつ有効な事業を展開。

科学館事業（中核事業）

展示活動／企画展

①「DO!サイエンス！」を進化させる企画展を実施

②企画展は、企画計画段階から常設展示の展示物更新を念頭に置き、計画的に実施

●平成26年度、27年度、28年度の夏季企画展、冬季企画展、春季企画展　各3回開催

展示活動／常設展示・参加体験型学習活動

①常設展示の充実

企画展の成果物を常設展示化(新規展示物・標本・映像コンテンツ・装置・解説パネル・模型等)。常設展示更新の予算はないので企画展での成果品を使うのが有効。下記の更新イメージを意識しテーマ設定を26年度中に行う。

●チャレンジ：買い物ゲームのアイテムを増設、太陽系や自然史系を増設、スペースシャトルの再塗装などを検討、科学の入り口を切り開いた展示物と絡めて科学者の紹介など

●からだ：進化の動物園バージョンアップ、人体の動画版追加、音響の部屋の活用など

●しくみ：ファラデーの実験（電磁誘導、電気と磁気）、コンピュータとプログラム、3Dプリンターでものづくりを増設など

●自然：さらにコレクションの活用（展示はほぼ理想的）

●地球：気象・武蔵野台地と水と緑のネットワーク・付加体の強化など

●天文：圏域外学習投影利用校校庭パノラマの追加、連携系ショートピースの充実、連携系ドームマスター研究開発。

②つながり展示

つながりの意味付けや事業方針を明確にし、3カ年計画を立案し、実施していく。

●地域の連携先との協働によるミニ企画展展開　●地域リテラシーと絡めた地域連携展示　●館保有のコレクションミニ展示

③展示ツアーの検討

●展示ストーリーブックを26年度中に完成させ、コア展示・ラボ・つながり展示を一貫したストーリーでつなぐ。

●展示物どうしを関連づけ、観覧のストーリーラインを作成する。これをもとに27年度以降展示ツアーを計画実施する。

④コミュニケーション型のプログラム開発・運営

●平成26年度中に現状プログラムの科学リテラシーと地域リテラシーの両面での育成レベルの適正評価とフィードバックを行う。

●フィードバックをもとに、平成27年度、28年度に改良と新規の開発を行う。

●多摩六都科学館の開発したプログラムは他館や理科教育などの現場でニーズがあると思われるので、平成29年以降にプログラムのオープンデータ化をめざす。

調査研究・収集保存活動

調査研究の成果品として、3年後までに以下をまとめる。

●武蔵野台地の関東ローム層v2、化石v2、ロクトコレクション図録　●「DO! サイエンス！」の実践記録　地域に文化として歩み始めるまで

●プログラムと科学リテラシーと地域リテラシーレポート　●多摩六都圏域水と緑のネットワークレポート（東大農場・演習林の生き物たち発行済み）　●コミュニケーション・プラットフォーム実践編

地域拠点事業

多摩六都地域のコミュニケーション・プラットフォームの形成事業

事業を行いつつ、多摩六都圏域における交流・連携・協働体制の強化。◆からだ・しくみの部屋⇒圏域企業・研究所・学校

◆自然・地球の部屋⇒武蔵野台地の自然。

①全域型地域拠点事業

●多摩島しょこども体験塾

毎年東京都から委託される「多摩島しょこども体験塾」をこの事業の核としてとらえ、自然系、企業系、地域博物館系、児童館など積極的に地域ネットワーク形成を図る。また、このネットワーク資源を積極的に圏域に広報していく。

・平成25年度　水と緑のネットワークを実施：自然系市民グループ、東大

・平成26年度　地域のものづくりネットワーク（仮）：企業系・研究所系と連携

・平成27年度　サイエンス・コミュニケーション・ネットワーク(仮)：児童館系の連携

・平成28年度　水と緑のネットワークⅡ(仮)：自然系市民グループ、東大と連携強化。あるいは地域づくり人系：産業振興系と連携

●地域づくり人の継続検討

②科学館拠点型地域連携事業の展開

●連携事業：①学校連携・支援　②企業・研究機関との連携業務、③地域市民活動連携業務

●ボランティア連携：さらに自律的活動の幅、プログラムの充実、ジュニア活動を広げる

●友の会運営業務：利用者のセグメンテイション、賛助会員システムの検討